

令和 8 年 6 月 3 日 通告

(一般質問)

質問日	令和 8 年 6 月 1 5 日 (月)			質問方式	分割方式		
質問順位	8	会派名	自由民主党浜松	議席番号	40	氏名	戸田 誠
表 題	質 問 内 容						答弁者の職名
1 AI 導入による産業支援と中小企業の人材育成について	<p>約40年前のOA化の際も「仕事が奪われる」と不安視されたが、結果として新たな仕事生まれ社会は活発化した。現在の生成AIの台頭も同様であり、AIは雇用の奪い手ではなく、人間が創造的な仕事に注力するためのパートナーにすべきであり、大企業でAI活用が進む一方、市経済を支える中小企業では、効果やリスクへの懸念から導入に足踏みする経営者が少なくないと考える。生産年齢人口が減少する中、中小企業の生産性向上は市経済の維持に直結する喫緊の課題であり、AIの活用推進が求められている。</p> <p>そこで、以下について伺う。</p> <p>市として中小企業におけるAIの活用支援をどのようにしていく考えか伺う。</p>						北嶋産業部長
2 ADSL 終了に伴うインターネット利用環境の確保について	<p>2000年代のネット普及を支えたADSLが2026年1月に終了した。しかし、光回線未整備や電波が届きにくい中山間地域等ではADSLが唯一の通信手段だった世帯もあり、スムーズな移行後に終了すべきであったと考える。ネットは今や行政情報の受取や災害時連絡等、生活に不可欠なライフラインである。この断絶は市民の生存権や知る権利を脅かす重大な事態であり、迅速な対策が必要である。</p> <p>そこで、以下について伺う。</p> <p>地域や世帯におけるデジタル格差を解消する観点から、光ファイバーの敷設困難地域等における公費投入や衛星通信を活用した基盤整備の考え方や、ADSLから他サービスへの移行が困難な世帯に対する市としての具体的な支援対策について伺う。</p>						飯尾デジタル・スマートシティ推進担当部長
3 戦没者慰霊碑の適正な維持管理について	<p>市内の戦没者慰霊碑については老朽化と遺族の高齢化が深刻であり、今年度市有地での危険な慰霊碑の除却が進むことは地域の安全確保と平和の記憶の整理として高く評価できる。しかし、より深刻なのは公的管理の届かない民有地の慰霊碑であり、倒壊被害や土地トラブルが懸念される。国の補助制度は市が実施主体の場合に限られ、高額な費用をカバーしきれないため、財政難の遺族会にとって重い足枷となり活用が進んでいない。遺族会が対応を模索する今、適切な支援を怠り放置されれば、将来的に市が多額の公費を投じて対応せざるを得ない事態を招きかねない。市として早急に民有地の慰霊碑</p>						新谷健康福祉部長

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>の除却・移設に向けた支援策を講じるべきと考える。 そこで、以下について伺う。 将来的な行政負担のリスクを回避し、かつ、これまで平和を祈り続けてきた遺族の方々の思いを尊重するためにも、市として、民有地にある慰霊碑について、円滑な除却等に向けた支援体制を構築する考えがあるか伺う。</p>	
<p>4 大規模災害発生時の体制強化に向けた取組について</p>	<p>近年、能登半島地震など震度5以上の地震が多発し、本市でも巨大地震による孤立集落や津波、火災が強く懸念される。また、気候変動に伴う大規模林野火災や局地的大雨など、自然災害は多様化・激甚化の傾向にある。市民の生命と財産を守り、これらの多様な災害に対応するためには、消防職員の災害対応力向上をはじめとする消防体制の強化が最重要な対策と考える。 そこで、以下について伺う。 本市消防局における大規模災害への対応状況について、伺う。</p>	<p>那須田消防長</p>
<p>5 施設分離型認定こども園による幼児教育・保育の質向上について</p>	<p>引佐幼稚園と引佐保育園を統合し、2028年に本市初の施設分離型認定こども園を整備する計画が進んでいる。少子化に伴う園の再配置において、単なる施設維持ではなく「集団での学びの場」の確保と質の高い教育・保育の提供が喫緊の課題である。今回の統合は、幼稚園の教育専門性と保育士の養護専門性を融合させ、施設は分かれていても0歳から就学前まで一貫したカリキュラムを可能にする施策と考える。また、互いの現場を経験することで、保育教諭としての資質向上や資源の最大活用を期待する。 そこで、以下について伺う。 (1) 集団での学びと預かり保育など、引佐地区で計画する認定こども園の運営について伺う。 (2) 引佐地区で計画する認定こども園において、保育教諭が、これまでの経験や専門性を共有し、園運営に生かす仕組みをどのように構築するか考えを伺う。</p>	<p>野田こども家庭部長</p>
<p>6 新城引佐線の整備と歩行者、自転車利用者の安全確保について</p>	<p>今年4月の改正道路交通法施行により、自転車の違反への「青切符」導入や、自動車が自転車を追い越す際の「1m以上の間隔空け」または減速ルールが定められた。しかし、本市の新城引佐線のように道幅が狭い幹線道路ではルール遵守による円滑な通行が著しく困難なのが現実。特に引佐南部中学校付近など、小中学生の通学と通勤車両が重なる狭隘区間では接触事故のリスクが高く、住民から強い不安の声が上がっている。自転車への厳罰化が始まった今、安全確保に向けた道路環境そ</p>	<p>加藤土木部長</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>のものの改善は避けて通れない課題と考える。 そこで、以下について伺う。 (1) 新城引佐線の歩道整備の進捗状況と今後について伺う。 (2) 新城引佐線の未整備区間における、歩行者・自転車の安全確保に関する市の認識を伺う。</p>	
<p>7 新東名浜松いなさ I C 周辺の誘致戦略について</p>	<p>浜松いなさ I C 周辺は広域ネットワークの要衝であるが、開通から14年経ち開発が進まない現状は「宝の持ち腐れ」と考える。三遠南信自動車道の全線開通を見据え、工業用水を必要とする製造業の誘致に固執せず、本市の強みである天竜材を最大限活用した新拠点形成を提案する。具体的には、天竜材の集積・加工・流通を行う次世代型ウッドコンビナートや、木質化ハイブリッド物流センター、木造備蓄倉庫などの官民連携での集中誘致が挙げられる。森林資源の加工による付加価値と雇用をこの地に生み出すことこそが、地域創生に繋がると考える。 そこで、以下について伺う。 浜松いなさ I C 周辺を「木材利活用の先進拠点」として位置づけ、インフラ整備や独自の優遇措置を含めた、積極的な誘致戦略を推進する考えはないか、伺う。</p>	<p>北嶋産業部長</p>
<p>8 農村歌舞伎の振興について</p>	<p>本市は多種多様な無形民俗文化財が息づく宝庫であり、引佐地区の「横尾歌舞伎」や、一度途絶えつつも再興した「雄踏歌舞伎万人講」などの農村歌舞伎が地域の手で守られている。合併後20年で、保護団体連絡会の立ち上げや振興条例の制定など、継承に向けた様々な取組が進められてきた。今回農村歌舞伎に着目したのは、祭礼と異なる特徴として開催時期や場所に比較的制限が少なく、更なる振興策が可能と考えられる。また、民俗学担当の学芸員資格を持つ職員が採用されたことから、その機能を最大限に発揮することが期待される。保存会からは、取組をより広く知ってほしいとの声も上がっている。 そこで、以下について伺う。 特徴や地域の意欲を踏まえ、農村歌舞伎の公開活用を推進していく施策について、その考えを伺う。</p>	<p>嶋野文化振興担当部長</p>
<p>9 中心市街地活性化について</p>	<p>中心市街地活性化に向けて昨年度「ビジョン」と「基本計画」が策定された。私は街づくりの核となる4つのキーワード「公共空間の利活用」「浜松愛をもっと」「世界を魅了する」「つなぐ・むすぶ」に深く共感する。成果を上げるための具体的な仕組みづくりや施策展開はこれからと考えるが、今年度から専任組織「まちなか政策課」が新設され、全庁的な取組が進むものと大いに期</p>	<p>北嶋産業部長</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>待する。</p> <p>そこで、以下について伺う。</p> <p>にぎわい創出や回遊性向上など、中心市街地活性化に向けた取組を伺う。</p>	
<p>10 森林資源の価値と林業振興について</p>	<p>天竜区特別委員会の現地視察を通じ、森林の多面的機能の重要性を再認識した一方、深刻な担い手不足や所有者の維持管理の限界といった現場の強い危機感を肌で感じた。本市は先駆けてF S C 認証を取得したものの、その価値が天竜材のブランド力や価格に十分反映されているとは言えない。現状は、品質が高めな住宅用木材が施策の中心になっていると思われるが、住宅着工件数が減少する中、今後は、戸建て住宅に依存する施策から、全量活用の視点で、中大規模を含めた非住宅物件に活路を見出していくなど、「木材販売戦略の転換」が必要と考える。</p> <p>そこで、以下について伺う。</p> <p>(1) 林業振興施策として第3次中山間地域振興計画にも掲げた「儲かる林業への進化」への展開をどのように考えているのか伺う。</p> <p>(2) 森林所有者意識が低下するなど、山側の課題は山積している。森林を管理できない、また、手放したいなどの意向を示す所有者への対応を伺う。</p>	<p>下位農林水産担当部長</p>
<p>11 本市のポテンシャルについて</p>	<p>本市は多方面で高いポテンシャルを有しており、市長もその高さを主張し続けてこられた。私が指摘してきた通り、本市には「音楽の街」としての発信力、広大な「森林の力」を活かした環境・産業基盤、「浜松いなさIC周辺」を活かした産業基盤強化や物流・雇用の創出、さらには観光誘客、地域で守られてきた「文化財」といった、独自の多様な強みと可能性が備わっていると考える。</p> <p>そこで、以下について伺う。</p> <p>(1) 市長はこれまで、これら本市のポテンシャルをどのように活かしてきたのか、総括を伺う。</p> <p>(2) 任期最終年度の残り期間において、本市の可能性を最大限に引き出すために、どのような決意を持って今後の市政運営に臨まれるのか、考えを伺う。</p>	<p>中野市長</p>